

ウイルス検査練習機器開発

メドリッジ 偽陰性減少に貢献

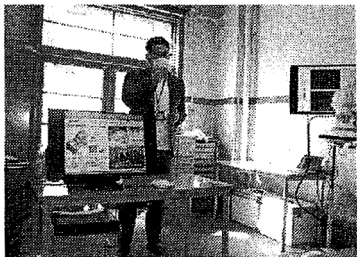
医療関連ベンチャーのメドリッジ（本社名古屋千種区、益田泰輔社長）は、新型コロナウイルスなどの検査で偽陰性を減らすため、検査方法を練習する機器を開発した。

新型コロナウイルスやインフルエンザの検査では、鼻からス

ワブと呼ばれる検査用綿棒で鼻咽頭のウイルスを採取する必要はあるが、患者側の痛みが伴うことに加え、医者側も慣れていないという課題があった。

開発した機器は、鼻腔内の骨の硬さなどの感触を再現したほか、センサーを搭

このほど、名古屋市役所で実演を行った



載し、正確な位置に適切な強さで触れているかを音や

モニターで知らせる。

益田社長は「医師に検査の正しいやり方を聞くなど、試行錯誤をして完成させた。新型コロナウイルスの偽陰性の減少に貢献できれば」と語った。

価格は1台300万円程度。現在、名古屋大学医学部付属病院に1台導入する予定。

このほど、名古屋市役所で機器の説明と実演を行った。